

若年性認知症とは？

認知症は、年齢に関わらず発症する可能性のある病気で、65歳未満で発症した認知症を「若年性認知症」といいます。まだ若いことから、診断までに時間がかかります。うつ病などの精神疾患と診断されていることも少なくありません。

早めに気づくことが重要

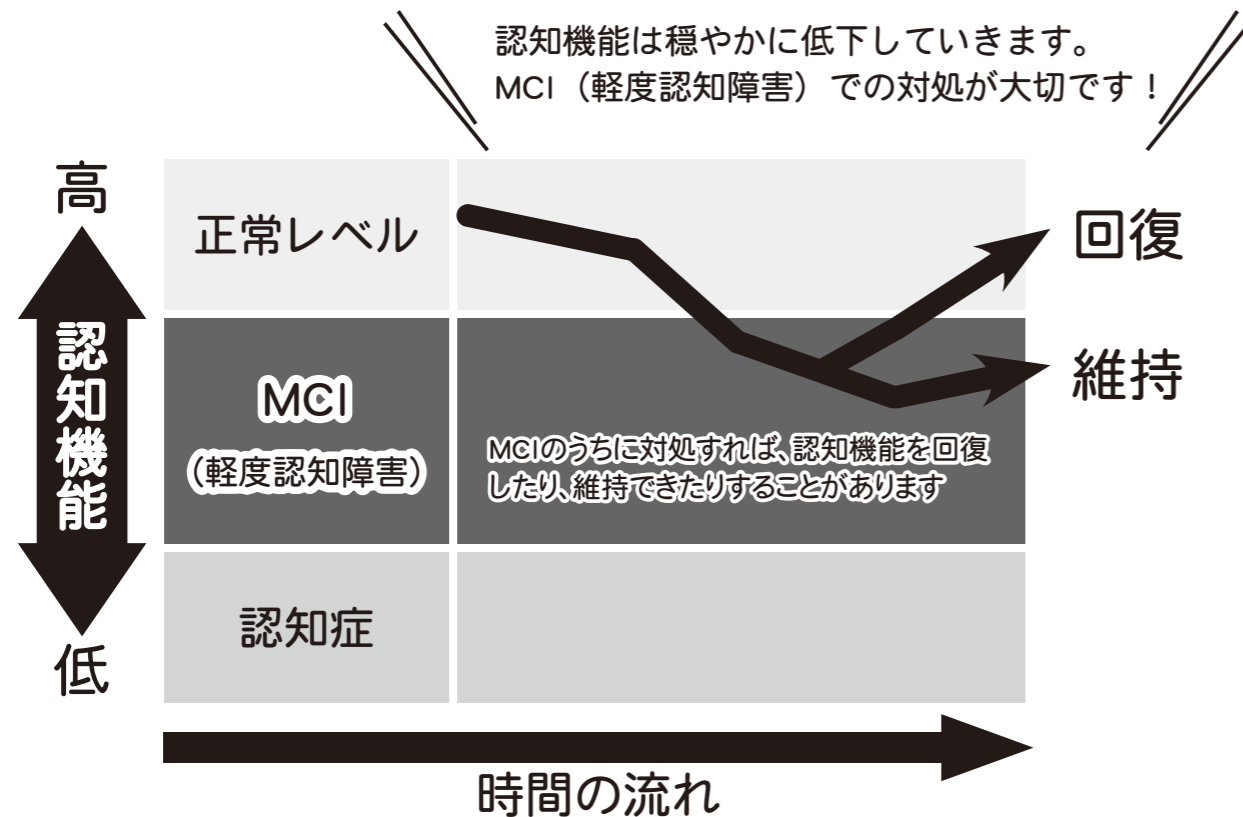
いつもと違う言動に、本人や周囲が「何か様子がおかしい」、「こんなはずではないのに」と感じていても、疲れやストレスのせいと見過ごしたり、ほかの病気と勘違いして発見が遅れることも少なくありません。

早期発見、早期対応により、記憶力や判断力が失われないうちに、本人が周囲に意思を伝え、将来に備えることが大切です。

軽度認知障害（MCI）とは？

認知症はいきなり発症するわけではなく、一歩手前のグレーゾーンがあります。その段階のことをMCI（軽度認知障害）といい、認知症予備軍です。もの忘れなどが気になる人は、かかりつけ医などに相談してみましょう。

軽度認知障害（MCI）の段階できづくことができれば、運動習慣や食生活など生活習慣を改善することで、認知症への進行を防いだり、発症を遅らせたりすることにつながるといわれています。



問合せ先 役場福祉課福祉係 ☎ (574) 2214

認知症になっても 安心して暮らしていくために

認知症とはどんな病気？

認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなるためにさまざまな障害が起こり、生活するうえで支障がおきる脳の病気です。

主な認知症の種類と特徴

一番多い認知症	
アルツハイマー型認知症	進行は緩やか。記憶障害が著しく、特に最近の記憶（短期記憶）が不得意になります。うつ状態がみられることもあります。
	特徴的な症状の例 <ul style="list-style-type: none"> ●同じ質問を何度も繰り返す ●物事の段取り（食事の準備など）が悪くなる ●日にちが分からなくなる ●約束をすっぼかす など
脳梗塞、脳出血などが引き金	
血管性認知症	脳の血管障害で脳細胞が死滅することで発症します。脳血管障害のリスクとなる高血圧や糖尿病などの治療・改善が予防につながります。
	特徴的な症状の例 <ul style="list-style-type: none"> ●意欲が低下する ●もの忘れがあるわりにははっきりしている（まだら認知症） ●手足の麻痺がある など
幻視が起こるのが特徴	
レビー小体型認知症	初期の頃はもの忘れより、うつ状態、震えといった症状が出たり、幻視（目の前にないはずのものが見える）を認めたりすることがあります。
	特徴的な症状の例 <ul style="list-style-type: none"> ●子どもや虫が見えると言う ●夢を見て反応し大声を出す ●もの忘れは軽い など
少ないがケアが必要	
前頭側頭型認知症（ピック症）	もの忘れの症状は軽く、意欲や理性、感情をコントロールすることが難しくなります。万引きや無銭飲食などで周囲を困惑させることも少なくありません。
	特徴的な症状の例 <ul style="list-style-type: none"> ●同じ時間に同じ行動をとる ●同じ食品を際限なく食べる ●周囲を顧みず自己本位な行動が目立つ など